

令和2年度平塚市イクボスプロジェクト（案）
「イクボスで企業価値の向上を目指そう
～ウィズ コロナ社会を生き抜くために～」

1 事業の実施概要について

- (1) 事業趣旨 男女共同参画社会の実現に向け、女性の活躍と男性の家事・育児・介護参画を進めるため、「仕事優先の生活」から「仕事と家庭生活を優先の生活」又は「仕事、家庭、地域・個人の生活の調和が取れた生活」ができる男性を増やします。

「イクボス」の考え方、取組を広く周知して、事業所にイクボスを増やすことで、誰もが働きやすい職場環境づくりが推進されるよう、事業所の経営者や管理職、従業員などを対象に講演会を開催します。

平塚市イクボス企業登録制度における登録企業を対象に、職場環境がどのように変わったか、また登録企業を増やすためにどのような取組をすればよいか参考にするために事例発表及び意見交換会を開催します。

- (2) 目的
- ・事業所において、誰もが活躍できる働き方を考えるきっかけとなる。
 - ・事業所での働き方の見直し、管理職及び従業員のワーク・ライフ・バランスの推進に積極的に取り組めるようになる。
 - ・「イクボス」に対する関心が高まる。
 - ・取組の1つの手段として「イクボス宣言」を知り、「平塚市イクボス宣言企業登録制度」への参加に関心を持つことができる。

- (3) 日程（候補日）

令和2年11月10日（火）、13日（金）

- (4) 会場

平塚市勤労会館3階 大会議室

- (5) 定員

50人

- (6) 対象者

事業所（経営者、管理職、人事・労務管理担当者）、関心のある市民

- (7) 内容

ア 講演会

- (ア) テーマ →事務局より2案を提案し、推進協議会の御意見を踏まえて決定します
(後述2 参照)

イクボス宣言を手段として、社員一人ひとりが互いに多様な価値観や働き方を理解し、社員が安心して働くことのできる環境を作ることが企業の生産性向上につながり、企業価値の向上をもたらすことを広く理解してもらい、事業所の働き方改革の推進を図ります。

イ 事例発表会

- ・イクボス登録企業に登録してから、職場環境がどう変わったか等を発表してもらいます。参加企業数に応じて、発表する企業数の調整を行います。
- ・発表する企業には、予め趣旨を説明して資料を用意していただきます。当日は、事務局でプロジェクターに資料や写真を映します。

(8) タイムスケジュール (全体で120分)

| | |
|---------|---------------------|
| ア 開会、挨拶 | 14時00分～14時10分 (10分) |
| イ 講演会 | 14時10分～15時20分 (70分) |
| ウ 事例発表会 | 15時20分～15時40分 (20分) |
| エ 質疑・応答 | 15時40分～15時50分 (10分) |
| オ 閉会 | 15時50分～16時00分 (10分) |

※ 平塚市イクボス宣言企業登録制度、平塚イクボスロゴマーク、平塚市イクボス宣言登録企業ステッカーの周知及びイクボスグッズの配布も併せて行います。

(9) 新型コロナウイルス感染症対策について

参加人数の上限を、会場の通常定員の半数以下の50人とし、人が密集しないよう席を配置するほか、適宜換気を行い、密閉した空間とならないよう努めることとします。

併せて、参加者にはマスク着用での参加をお願いする予定です。

(10) 令和2年度における意見交換会の実施について

昨年実施した平塚市イクボス宣言登録企業間の意見交換会につきまして、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえ、当該企業の皆さまに対し書面で意見照会を行い、取りまとめの上情報提供する形でもって実施することを検討しています。

(11) 令和2年度におけるイクボスグッズの製作について

イクボスグッズは、「イクボス」を知ってもらい、イクボス宣言につなげていくための普及・啓発を目的に例年製作しているもので、昨年度はロゴマーク入りのクリアファイルを製作しました。

今年度は、ふせんメモ又はマルチクリーナーを検討しています。皆さまに使ってもらえるような、イクボスPRに貢献できるグッズとすることを念頭に、予算を踏まえてイクボスプロジェクト実施時には配布できるよう、検討・製作を進めます。

参考

過去の開催実績

平成27年・・・講演会

平成28年・・・企業合同イクボス宣言式 / 講演会

平成29年・・・基調講演 / イクボス宣言登録企業によるパネルディスカッション

平成30年・・・基調講演 / 大学生・高校生によるパネルディスカッション
令和元年・・・講演会 / 事例発表及び意見交換会（平塚市イクボス宣言登録企業のみ）

2 講演会の内容について

案1

テーマ：「健康経営×イクボス～取組のその先にあるものとは～（仮称）」

講師：ウェルリンク株式会社 講師（心理士、保健師、社労士、コンサルタント等専門家から選定）

- ・健康経営とは従業員の健康保持・増進の取組が将来的に収益性等を高める投資であるとの考えのもと、健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践すること。アフターコロナ、ウィズコロナの時代に突入し、ますます企業経営と社員の健康保持・増進の関連が高まっています。そうしたなか、従業員の健康増進や活力向上に取り組むことで業績向上・企業価値の向上を目指す在り方について、働き方の見直し、ワーク・ライフ・バランスの推進、イクボスの必要性も含めて講演していただきます。
- ・ウェルリンク株式会社は、昨年イクボスプロジェクト内の講演会時に健康経営に関する話をさせていただいた本市健康課とのつながりがあり、紹介を受けた企業です。働く人々の心とからだの健康づくりに20年携わってきた実績と専門性を活かし、現場の状況に即した実効性のある講演会を実施することができます。
- ・また、パワハラ防止に関する取組についても造詣が深く、2020年6月に施行されたパワハラ防止法（改正労働施策総合推進法）に基づき、令和4年4月1日以降中小企業にもパワハラ防止のための措置が義務化されることを受けて、誰もが働きやすい職場に改善するための取組の1つとして、今後企業で対応する際のポイントを解説してもらうことも可能です。

案2

テーマ：「世界の新しいものさし“SDGs”を達成するために～イクボスを増やそう～（仮称）」

講師：①SDGパートナーズ 代表取締役CEO 田瀬 和夫 氏

又は②一般社団法人SDGs支援機構 代表理事 河上 伸之輔 氏

- ・SDGsとは、2015年に国連で採択された2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた「持続開発可能な目標」のこと。国連が民間企業と一体となって社会課題を解決することを目指しており、今後社会全体にこの考え方が浸透していけば、企業のSDGsへの取組や貢献度が「選ばれる企業」になるためのひとつの基準となることが考えられます。SDGsでは、設定されている17の目標のうち、「ジェンダー平等を実現しよう」「働きがいも経済成長も」の2項目があり、イクボスを増やすことが目標達成のためのポイントの1つであることを周知します。
- ・SDGsを達成するために、どの企業でも実践できる取組の1つとして「イクボス宣言」を紹介することにより、「イクボス」や「平塚市イクボス宣言企業登録制度」に興味を持ってもらう契機とします。

【参考】

①SDGパートナーズ 代表取締役CEO 田瀬 和夫 氏 プロフィール

1967年福岡県福岡市生まれ。東京大学工学部原子力工学科卒、同経済学部中退、ニューヨーク大学法学院客員研究員。1991年度外務公務員I種試験合格、92年外務省に入省し、国連政策課、人権難民課、アフリカ二課、国連行政課、国連日本政府代表部一等書記官等を歴任。2001年より2年間は、緒方貞子氏の補佐官として「人間の安全保障委員会」事務局勤務。2005年11月外務省を退職、同月より国際連合事務局・人間の安全保障ユニット課長、2010年10月より3年間はパキスタンにて国連広報センター長。外務省での専門語

学は英語、河野洋平外務大臣、田中真紀子外務大臣等の通訳を務めた。2014年5月に国連を退職、同6月よりデロイトトーマツコンサルティングの執行役員に就任。同社CSR・SDGs推進室長として日本経済と国際機関・国際社会の「共創」をテーマに、企業の世界進出を支援、人権デュー・デリジェンス、SDGsとESG投資をはじめとするグローバル基準の標準化、企業のサステナビリティ強化支援を手がけた。2017年9月に独立し、新会社SDGパートナーズを設立して現在同社代表取締役CEO。また、同年10月1日より国際機関GPE（教育のためのグローバル・パートナーシップ）の日本コーディネータに就任。私生活においては、7,500人以上のメンバーを擁する「国連フォーラム」の共同代表を2004年より務める。

※SDGパートナーズのホームページより抜粋

②一般社団法人SDGs支援機構 代表理事 河上 伸之輔 氏

一般社団法人SDGs支援機構代表理事（SDGsジャーナル運営）。シナジーコンサルティング株式会社代表取締役。2030SDGs公認ファシリテーター。

証券会社、M&Aコンサルティングファームを経て30歳で起業。「誰もが挑戦できる社会を創る」をビジョンに、不動産賃貸業をメインとし、コワーキングスペースの運営、クラウドファンディングサービスの運営を行う。

青年会議所においてSDGsの事業を行なったことをきっかけに、SDGsへの研鑽を深め、自社でも経営にSDGsを取り入れる共に全国で講演を行なっている。

中小企業のSDGsの実践を目標として活動し、一般社団法人SDGs支援機構を起ち上げ、SDGsウェブメディア「SDGsジャーナル」を運営、金沢工業大学SDGs推進センターの平本督太郎センター長と共に中小企業のためのSDGsの実践のための書籍を執筆中。

※一般社団法人SDGs支援機構のホームページより抜粋

以 上